

三条市租税教育推進協議会長賞

税の大切さ

三条市立第四中学校 三年 石田 悠杏
いしだ ゆあん

みなさんは、救急車の不適正利用が年々増えているという話題を耳にしたことがありますか。

救急車の出動に使われる年間の費用は、約二千六百七十億円で、一回の出動にかかる費用は、約四万五千円です。ですが、現在の日本では、税金のおかげで無料で救急車を利用することができません。これは世界的に見ても珍しいことで、オーストラリアやドイツ、アメリカなど多くの国や都市の救急車が有料で、日本円にすると約十万円と非常に高く、救急車を無料で利用することができない国の方が少ないそうです。

しかし、年々、救急車の出動件数が増えています。病院に搬送された方の四十五パーセントが軽症で、「入院予定日があるから病院に行きたい」「日焼けした足がヒリヒリする」「蚊に刺されてかゆい」など、病状に緊急性がなくてもタクシー代わりに救急車を呼ぶなどの事例が増えています。救急車の出動件数は、六百十九万三千六百六十三件で、前年に比べると二十九万三百八十六件増加しているのだそうです。出動できる救急隊員と救急車の数には限りがあるため、必要ではない人が多く利用してしまうと、本当に必要で緊急性のある人たちの元へ到着するのに時間がかかってしまいます。そして、救急車を適正に利用しないと、一

千億円以上の税金が無駄に使われることになります。しかし、救急車が必要か不必要か判断するのはむずかしいです。そこで私は、税金を無駄づかいしないためにできることがあるか調べてみました。

判断に迷うような症状のうち、救急車を呼ぶべき症状は、大人の場合、「顔半分の動きにくさや痺れがある」「突然、力が入らなくなる」「見える範囲が狭くなる」などがあり、子どもの場合、「けいれんしている」「手足が硬直している」などがあります。救急車を呼んだ方がいいか、今すぐ病院に行った方がいいかなど、判断に迷ったときに、七一一九に電話することで、救急電話相談を受けられるということが分かりました。

快適なくらしを守るために行われるゴミの収集と処理、安全を守る警察や消防など、私たちの生活に欠くことができないもので、民間の経済活動では生み出せないサービスを「公共サービス」と言います。私たちは、税のおかげで安全で安心な生活を送れていることに感謝し、納税の義務を守れる大人になることが大切だと思います。